



Reitaku Overseas Development Association RODA ニューズレター

財団法人麗澤海外開発協会 会報

平成22年
(2010年)
11月25日
第13号
第8巻 第1号
年2回発行

主な記事

- 巻頭 タイ・スタディツアー開催
- 報告 ネパール・ビルガンジーヘルスキャンプ
平成21年度事業報告
- その他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・木下廣太郎 / 編集人・横山守男



平成22年2月7日から9日間、6回目のタイ・スタディツアーを行いました。タイ北部にあるメーコック財団（貧困等の理由により学校に通えない29名の子供たちに寄宿舎を提供、通学支援や職業訓練を行っている）や、少数民族の子どもたちが多く通う学校を訪問し、現在の教育問題や子どもたちを取り巻く麻薬問題について校長からお話をうかがったほか、子供たちと異文化交流を通してふれあうなど、貴重な機会を得ることができました。

このツアーでは、さらにルンアルン（暁）プロジェクト（タイ北部山岳少数民族の教育支援を行い、生徒寮、奨学金制度等を運営している団体）や NPO 法人アクセス21のタイ側活動拠点であるホーリン村を訪問し、HIV と共に生きる女性たちが作務衣を製作し、日本で販売するフェアトレード事業などを見学しました。

大学生を中心とする8名の参加者は、普通の旅では体験できない子供たちとの交流や現地支援団体を訪問し、ボランティア活動への意識を高めることができました。また、食・伝統・風土など様々な角度からの「体験」を通してタイ文化を知ったことで、新たな気づきが生まれました。異文化、子供たち、現地で支援活動に携わる人との「出会い」から得た旅には大きな収穫があったのではないのでしょうか。



タイを訪れて

タイ・スタディツアーを通して、自分たちの文化や価値感を見直し、新たな自分の発見ができました。



今回の旅を通じて、自分が置かれている環境のありがたさを実感するとともに、国際協力についての理解が深まりました。お金だけではだめですし、現地でのボランティアだけでもだめですし、ただ建物をつくるだけでもだめです。本当の支援とはなんだろうかと考えさせられます。ただ、1つ言えることは現地に行かなくては分からないことが多くあり、感じる事が多くあるということです。見て、感じることで理解できることが多くあります。次回もぜひ教員が参加させてもらえるようお願いをし、報告書とさせていただきます。

神田 和(麗澤瑞浪中学・高等学校教員)

たくさん学び聞き、タイ・スタディツアーに参加して、タイの素敵なおところ、抱えている問題、タイの裏側のことを自分の目で見て、自分で実際に聞き、体験することができ、考えさせられたことがたくさんあった。タイ・スタディツアーに参加して、まだ日本でできることがあるのではないかと感じた。ボランティアをするときには、相手や相手の国についてしっかり勉強することも大切と感じた。普通に生活している中で感謝することが多くなり、そして、将来などについて考えるようになった。タイへ行き、考え方が変わった自分を発見することができた。本当にタイ・スタディツアーに参加してよかったと感じた。 正木夢子(麗澤大学外国語学部日本文化専攻1年)



今回参加して一番に思ったことは、やはり、その場・現地へ行ってみたいと何も分からない、ということです。その場の人たちと触れ合い、その場の雰囲気を実際に感じないと何も語れないと思います。文化の違いを多く感じる事ができました。現地でお世話になった方々や先生方、親に感謝です。いい経験をありがとうございました。この9日間で感じた思いを忘れずに、これからも自発的に何かに参加したり思いやりのある人になりたいです。「時間・お金・体力・勇気こそが美しい犠牲である」という竹原茂先生の言葉、本当にそうだと思いました。

豊坂波留奈(麗澤大学外国語学部日本文化専攻1年)

このスタディツアーに参加する前の自分を含め、多くの日本人は、タイの現状をあまり知らないと思います。テレビや授業で話を聞いただけでは分からないことを、たくさん経験することができました。また、これからの自分について見つめなおすこともできました。私はこのツアーで学んだこと、たくさんの人との出会いを、ただの思い出にはしたくありません。このツアーはきっかけで、これから私のできることを実践していくための第一歩だと考えています。いろいろなことを考え、感じ、学ぶことができた9日間でした。ありがとうございました。

水野睦子(麗澤大学外国語学部日本文化専攻3年)



私はタイに来てタイの文化や歴史に触れ、母国、日本のことをあまり知らないということが分かり、もっと日本について知りたい、そして日本の文化を世界に発信できるような存在になりたいと思いました。知ることは国際協力の始めの一歩であり、また理解した上でさらに次の行動を起こすことが真の協力者となるのではないかと感じました。私はこれからもっといろいろな世界を知り、何がその土地の援助に繋がるのかを見極め支援をしていきたいと思いました。

横山奈樹(麗澤大学外国語学部日本語学科3年)

私は、今回のスタディツアーに参加して多くの面で、いろんなことを学ぶことが出来ました。タイの文化が日本とどれだけ異なるのか、子供たちの学校教育がどのようなになっているのか、また山岳民族の貧困がどのようなものかなど、挙げてみるときりがなくらいです。しかし、中でもタイの文化は日本と大きく違って驚かされることばかりでした。

水竹優香里(麗澤大学外国語学部日本語学科3年)



よもぎの会主催
医療支援

Nepal Health Camp in Birganj

ネパール・ビルガンジーヘルスキャンプ報告

ヘルスキャンプ実施期間：2010年8月16日（月）～20日（金）

参加者：日本人鍼灸師10名（鍼灸専門学校生含む）ネパール人鍼灸師5名、事務局2名
赤十字スタッフ及び現地看護学生ボランティア約50名

実施場所：ネパール・ビルガンジー中心部ヒンズー教寺院内

時間：6時（早朝）～12時（正午）まで

ヘルスキャンプは、カトマンズより南へ100キロほどにあるインド国境付近のビルガンジーという町で行いました。ベッド数は全40台、1ベッドにつき1名の看護ボランティア、鍼灸師が一人2台、多い人は6台のベッドを受け持ち治療します。インドの国境付近のため、標準ネパール語すら十分ではなく、ヒンドウ教の患者も多いため、通訳は難しいようでした。時々、ネパール人鍼灸師に英語で詳しく問診し、英語で説明、覚えてのネパール語でコミュニケーションをとる姿が多く見られました。初診は始めの3日間のみ受付、それ以降は再診となり、最終は3600名ほどになりました。

カトマンズから南へ100キロ以上、インド・ラクソールの国境付近がビルガンジーです。主な患者は、ビルガンジー市内、またシムラ、ラクソールからも歩いてやってきました。国境近くのビルガンジーでは5カ国の言語が混ざりあい、（標準）ネパール語、（方言）ネパール語、ヒンディ語、そして私たちの日本語と英語が飛び交っていました。鍼灸治療に必要なことは、まず患者さんとのコミュニケーションであること、と伺いました。臨時の医療現場では、とにかく多くの患者さんの治療をすることが最優先されるはずですが、一人一人の患者さんとコミュニケーションをとるべく看護学生ボランティアを通して会話をしていました。

会場は、ヒンドウ教のお寺を拝借し、お参りに来る方と診療に来る方で常に満員。患者以外にも見物している人も多く、治療中の現場に入らぬよう赤十字スタッフとネパール人スタッフが抑制してくれていました。



首都：カトマンズ
面積：140,800km²（日本の37%）
人口：約3,000万人（日本の23%）
識字率：48.6%
（男性62.7%、女性34.9%）
民族：30以上
言語：50以上
宗教：ヒンドウ教、仏教
平均寿命：約60歳
総合病院：首都の国立大学病院のみ

Nepal
ネパール

カトマンズ

ビルガンジー

india

ヘルスキャンプ
日誌

参加した鍼灸師の皆さんが綴った

ヘルスキャンプの出来事

「鍼灸の道に進んで間違いでなかった、と確信した」



ビルガンジーに到着するとすぐ、会場の見学。とても広くて大きな会場には三〇台近くの治療用ベッドがずらり。HC（ヘルスキャンプ）のために、多くの人が準備をして環境を整えて待っていてくださっていることを感じ、感動（実はこのときすでにうろつと…）五日間で私たちに求められているものどのように立ち回らすべきかが、とてもよく分かった。

HC中は想像通りの忙しさ。怖い、どうしよう…そんなことを考える暇などなく、わからないときには畑先生や周りの仲間へ声をかけるとすぐに手を差し伸べてくれる。自分ができることは何かを瞬時に判断して一生懸命にやるだけ、本当に楽しかった。

（看護師 千々和 香織）

今回参加したネパールのビルガンジーでのヘルスキャンプ。そこでは壮絶な医療現場を目の当たりにした。

患者が藁をにもする気持ちで、毎日何百人と訪れてきてくれた。ヘルスキャンプで私が治療にあたった期間は五日間。技術の少ない私ができることを駆使し、患者にどれだけ応えられるか。毎日がその闘いだった。

結果から言うと、今回のヘルスキャンプでの自己評価は“不合格”である。私は自分自身に対し非常に悔しい思いをした。このままではいけないと強く感じた。私が日本へ帰って帰ってきた一番大きな気持ちである。

今回、壮絶だと感じたこのヘルスキャンプで、多くの患者に頼られ、そして結果を出せず、無力感や悔しい思いをたくさんした。そんな中で“確信”に少しだけ近づいたことがある。私が志した鍼灸という道の先に、自分という人間が目指す目的地があるのでないか、ということ。これは自分に対して大きく影響する、小さな期待である。

（東洋鍼灸専門学校 石島 裕太）

「膝の痛みが無くなって、

その一言を聞いた時、こんなにも素晴らしいことがあるのだと言葉になりませんでした。今年学校に入学し勉強し始めた私が鍼灸を知りたいと参加したヘルスキャンプで、鍼灸の素晴らしさを知るのに十分な一言でした。

ネパールという土地。途切れる事のない患者さんの列。あちらこちらで焚かれるもぐさの香り。朝早くから休みなく続く治療。カルテに書きこむ経穴名。私にとってすべてが初めてでした。

症状を聞き、考え、教科書を開いて調べ治療する。初めは患者さんへの触れ方さえもこちなかった



毎日とても幸せなのよ」



と思いますが、周りで治療する先生方のやり方を真似てみたり、聞きに行つて教えていただくことで、前日より一つでも前進を…と即実践の日々でした。

郷に入れば郷に従えの言葉どおり、鍼灸にもヘルスキャンプにも頭ではなく身体から先に入ったことで、患者さんの肌の色や言葉、生活習慣の違いを超えて通じるものがあつたように感じ、現場でしか体験できない空気に触れられたことはとても良い経験になりました。

（北海道鍼灸専門学校 江川 菜々子）

—平成21年度事業報告—

1. 技術者の派遣と支援事業について

<ネパール>

(1) ネパールにおいて東洋療法(鍼灸・指圧)により住民の健康回復に寄与するために、日本人専門家を派遣して治療技術者の育成を行い、また、治療に使用する「もぐさ」の製造技術者を育成し自立支援を実施した。

<タイ>

(1) 北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供たち(29名)への生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を実施した。

2. 緊急支援について

(1) ハイチ大地震被害に対して日本UNHCR協会を通じて緊急支援を行った。

*UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)

3. 招聘事業について

(1) ネパール人鍼灸専門家2名を日本に招聘して、技術向上のための研修およびネパールの鍼灸治療の現状報告会を行った。

- ① 日程 平成21年11月11日(水)～24日(火)
- ② 被招聘者 イスワル・ラス・バラミ(ネパール人鍼灸師)
ピシャル・シュレスタ(ネパール人鍼灸師)

4. スタディツアーについて

(1) タイ・スタディツアーを実施した。

- ① 日程 平成22年2月7日(日)～2月15日(月)(9日間)
- ② 参加者 8名
- ③ 訪問先 タイ(チェンマイ、チェンライほか)

(2) 「よもぎの会」のスタディツアー(ヘルスクャンプ)の開催を支援した。

- ① 日程 平成21年8月19日(水)～25日(水)
- ② 行先 ネパール(カトマンズ、ポカラ)ネパール赤十字ポカラ支部
- ③ 参加者 9名
- ④ 治療患者数 2,275名

(3) タイ北部メーコック財団においての麗澤大学生によるスタディツアーが実施され、それをサポートをした。

- ① 日程 平成21年8月20日(木)～8月31日(月)(12日間)
- ② 参加者 7名
- ③ 訪問先 タイ(チェンマイ、チェンライ)

(4) カンボジア・スタディツアーは、カンボジア国内でインフルエンザが流行したため、中止した。

(5) 当協会がサポートして実施する予定であった麗澤高校タイ・スタディツアーは、タイ国内の政情不安により中止された。

5. 海外視察について

(1) ネパールにおける支援事業の現状視察および今後の方針についての打ち合わせのため、渡航した。

① 日程 平成21年12月24日(木)～31日(木)

6. 賛助会員募集状況について

(1) 賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

- ① 賛助会員 法人：5社 個人：109件
- ② 寄付金 147件
- ③ 竹原基金 56件

7. 広報活動について

(1) ニュースレター第12号(3月)を発行した。

(2) インターネットホームページを改定した。

(URL: <http://www.reitaku.or.jp/>)

8. 講演会・報告会について

9. 外務省による立ち入り検査について

10. 出展活動について

(1) 「伝統の日・感謝の集い」

平成21年6月7日(土)・6月8日(日)

11. 会議開催について

本法人の運営にあたって、次のとおり役員会を開催した。

- ① 第90回理事会・第49回評議員会
- ② 第91回理事会(臨時)
- ③ 第92回理事会(臨時)
- ④ 第93回理事会・第50回評議員会

(2) 事務局打合せ



事業活動収入		支出の部	
①基本財産利息収入	300,000	①事業費	
②賛助会員会費収入	2,020,000	海外調査費	279,380
③寄付金収入	3,436,405	海外旅費	2,165,004
④竹原基金収入	725,826	広報活動費	105,535
⑤受取利息収入	1,229,861	図書資料費	6,165
⑥雑収入	0	雑費	256,229
当期収入合計	7,712,092	緊急援助費	500,000
前期繰越収支差額	2,225,560	②助成支出	1,520,000
収入合計	9,937,652	③管理費	
		給料・手当	0
		会議費	513,996
		旅費交通費	281,330
		通信費	103,268
		消耗品費	26,295
		印刷費	62,370
		交際接待費	31,500
		報酬委託手数料	2,940
		慶弔費	190,000
		雑費	2,924
		④助成事業積立金繰入支出	3,000,000
		当期支出合計	9,046,936
		次期繰越収支差額	890,716
		支出合計	9,937,652

infomation & event



「伝統の日」に出展しました

千葉県柏市において公益財団法人モラロジー研究所および(学校法人)廣池学園主催の「伝統の日」が開催され、麗澤海外開発協会ではラオス図書館建設の募金活動や活動紹介展示、タイやネパールの民芸品販売を行い、多くの皆様にご協力いただきました。本誌を借りて厚くお礼申し上げます。

また、有志の参加で布草履の販売があり、伝統の日のために手作りの草履を販売し、募金いただきました。麗澤大学IEC(麗澤大学外国語部外国語学科国際交流・国際協力専攻)の学生さんや、サークル「ブアン」の皆さん、麗澤中学・高等学校の皆さん、モラロジー専攻塾の皆さん、また卒業生も駆け付けていただき、民芸品販売などに協力していただきました。今後も国際協力の輪を広げるため、日々がんばっていききたいと思います。



「生涯学習フェスタ」で棒灸体験を開催



10月3日 公益財団法人モラロジー研究所主催の生涯学習フェスタに参加し、麗澤海外開発協会ではネパールの棒灸体験を開催しました。約10名の鍼灸師、鍼灸学校の学生さんにお越しいただき無料で実施し、ネパールのよもぎオイルや石鹸などの販売も行いました。体験した総勢150名の方々からは「気持ちよかった」「リラックスできた」「肩こりが軽くなった」などのお声をいただき、また募金にもご協力いただきました。ありがとうございました。



棒灸のススメ

棒灸治療は、肩こり、腰痛、膝関節炎、胃痛、腹痛、風邪の初期症状、生理不順、食欲不振、不眠症、頭痛片頭痛、慢性病などに効き目があります。

棒灸は、もぐさを棒状にしたもので、それに火をつけ患部に押し当てます。あたたかさともぐさの香りが体内に広がります。麗澤海外開発協会では棒灸の販売をしています。事務局への電話で受付けております。



たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成22年2月10日～9月30日まで)

会費

廣池幹堂、廣池英行、甲良昭彦、望月雄二、内田誠一郎、木下廣太郎、関哲夫、嶋田順子、山口明、大橋政夫、野田ミート(株)、宮島達郎、(株)ピアかざりや、新井秀啓、福澤清治、内田八代、長谷和治、竹原茂、土谷和光、大河原良雄、荒木郁雄、林正勝、白木和彦、(有)白木園芸、白木ふさ子、長谷川武、高松宇佐雄、中村修一、横山守男、杉浦廣道、小松務、平川恵一、山本祥子、柏谷康博、橋本半兵衛、大谷誠之、宮脇常夫、望月靖子、山本幾雄、横山印刷(株)、合資 川貞商店、今井收、館林正孝、(株)ダイキョープラザ、所一彌、石渡英雄、柴田英輔、高松 洸、大村金三、福田薫、長谷篤治、山田雅雄、佐藤薬品工業(株)、發坂卓雄、大垣モラロジー事務所、松本哲洋、小西直之、藤村薫、野田好秋、望月一雄、望月敏雄、望月淑子、市野忠志、俣野幸昭、山口マーク、桑島義智、(株)小松製菓、(株)スーパーバリュー九州本部、小山松男、山崎純雄、小嶋義佑、前田三作、長谷川和子、東海林新彦、武藤孝義、井上源一、高野橋孝治、望月省二、太田徳昭、戸田正宏、井上源次、木村美紀夫、笠原茂、小林雅純、中川千恵子、大内栄三、永治達彦、濱井利一、上田通泰、福井博康、荻野益男、桑島朋子、白木貞一郎、藤村きみ、久保智子、久慈芳子、平塚靖永、須見好和、俣野貴昭、滝沢与吉、有限会社 弘明堂、星野修一、松下道子、上田敏子、武澤保美、松岡孝隆、三木実、上田豊

竹原基金

廣池幹堂、廣池英行、甲良昭彦、望月雄二、木下廣太郎、関哲夫、田中駿平、山口明、大橋政夫、野田ミート(株)、長谷和治、竹原茂、土谷和光、白木和彦、高松宇佐雄、中村修一、横山守男、平川恵一、山本祥子、柏谷康博、宮脇常夫、山本幾雄、所一彌、石渡英雄、長谷篤治、山田雅雄、發坂卓雄、松本哲洋、小西直之、野田好秋、桑島義智、小嶋義佑、前田三作、東海林新彦、木村美紀夫、笠原茂、上田通泰、福井博康、荻野益男、桑島朋子、白木貞一郎、武澤保美、松井さだ子、板橋芳夫、観音寺モラロジー事務所

一般寄付金

廣池幹堂、甲良昭彦、望月雄二、木下廣太郎、関哲夫、山口明、大橋政夫、野田ミート(株)、長谷和治、大河原良雄、渡辺康博、中村修一、横山守男、大山寿々枝、宮脇常夫、山本幾雄、所一彌、石渡英雄、高松 洸、長谷篤治、山田雅雄、發坂卓雄、東京北モラロジー事務所 レインボー会、小西直之、野田好秋、俣野幸昭、桑島義智、小山松男、東海林新彦、増田一江、小林雅純伊東俊太郎、濱井利一、上田通泰、大住敬一、野田雅義、加藤義彦、福井博康、荻野益男、白木貞一郎、出町友里子、井上照悟、飯島孝之上中凱雄、田島政芳、一瀬英薫、柿本勇人、佐久間三郎、三笠忠克、三上ハツミ、森与喜男、杉山 直、中野芳典、板橋芳夫、飯島孝之、風澤俊夫、鈴木秀子、第20回 MGC九州大会、三笠電気(株)、(株)ダスキン東横、爽やかゴルフサークル 森俊一郎、秋田県モラロジー協議会 女性クラブ、磐周モラロジー 希望の会、岩槻モラロジー事務所、鹿行モラロジー事務所、伊達モラロジー事務所、モラロジー関東・上信越ブロック、吉野モラロジー事務所、新潟モラロジー事務所、中新田モラロジー事務所、東北ブロック 女性クラブリーダーの会、奈良モラロジー事務所、尾西モラロジー事務所 女性クラブ、由利モラロジー事務所、麗澤瑞浪中学・高等学校



「準会員制度」が始まります

財団法人麗澤海外開発協会では、スタディツアー参加者やイベントへの賛同者・ボランティア等における若年層を対象に、新しく「準会員制度」をスタートし、当協会の目的・事業等に賛同する若年層の皆さんを「準会員」として募集しています。会費は年間1口2,000円、年齢は18歳から39歳までの方で、「準会員」としてご入会いただいた方には、年2回の『RODAニューズレター』やイベント情報等をお送りします。詳しくは下記の麗澤海外開発協会事務局にお問い合わせください。

種類	年額
会費	個人 1口1万円(1口以上) 法人 1口1万円(3口以上)
準会費	1口2,000円
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金募金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567

名義(財)麗澤海外開発協会

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。

掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。

ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局:04-7173-3165)



HP: <http://www.reitaku.or.jp/>

第7回 平成23年2月13日(日)～2月21日(月)9日間

ラオス・スタディツアー参加者募集中

ラオスの教育問題について現地で触れ、学び、また生活習慣の違う子供たちとの交流から、他国や異文化への理解を深めます。訪問するタート・インハン学校は平成20年に麗澤海外開発協会の支援により校舎の再建を行った学校です。ラオスでは図書設備のない学校が多く、同学校と村人から図書館建設の依頼を受け、当協会では図書館建設をスタート。今回のスタディツアーでは、図書館の贈呈式に参加し、生徒たちとの交流を深めます。スタディツアーを通して視野を広げ、自らの新しい可能性を発見してみませんか。

★主な訪問地

- ラオス(ヴィエンチャン、サワンナケート)
- ・I V-JAPAN(国際協力NGO)
- ・ヴィエンチャン国立大学 等

★募集人数

8名 / 最少催行人数5名
(定員になり次第締め切り)

★申込期限

平成22年12月17日(金)

★参加費

185,000円

当協会会員でない方は別途会費1万円が必要。
(往復航空運賃、空港使用税、期間中の食費・
宿泊費・移動費・コーディネート費を含む)



※再建したタート・インハン小学校



★応募資格

- ・年齢20歳以上65歳未満
- ・健康状態が良好で全日程に参加できる方
- ・当協会の活動に関心のある方

★★★★お問い合わせ・お申込み★★★★

(財)麗澤海外開発協会

柏市光ヶ丘2-1-1

Tel:04-7173-3165 Fax:04-7173-1100

HP:<http://www.reitaku.or.jp>

上記ウェブサイトからパンフレットと申込書入手、
またはお電話ください。申込書を郵送または直接当
協会までご提出ください。

訪問先情報!



●I V-JAPAN(国際協力NGO)

ラオスにおける学校建設、人材派遣やラオスの青年の自立支援活動をしています。スタディツアーでは、I V-JAPANの事務所で富永幸子代表のお話を伺い、職業訓練校を見学します。

●ヴィエンチャン国立大学日本語学科

ヴィエンチャン国立大学の日本語学科にて、ラオスの大学生と交流会を行います。日本の文化を紹介したり、ラオスの学生生活の話をご直接伺うことができます。

観光先情報!



●タート・ルアン寺院

タート・ルアン(That Luang)は、ラオス仏教の最高の寺院でラオスの代表ともいえる美しい寺院です。伝承では3世紀頃インドからの使いの一行がブッダの胸骨を納めるためにタート・ルアンを建立したと伝えられるが、定かではありません。1828年にシャム(現在のタイ)の侵攻により損傷を受け、1936年に改修されています。

